

特集：豚の浮腫病（VTEC 感染症）に対する抗菌剤の 応用について*

A Symposium : Application of Antimicrobials against Porcine Edema Disease (VTEC Infection)

今回のシンポジウムにあたって

高 橋 勇（日本獣医畜産大学名誉教授
・動物用抗菌剤研究会理事長）

本会は発足以来、これまでの 25 年間に、毎回時宜に適したテーマを選びシンポジウムを実施して、今回で第 26 回を迎えた。特に、1994 年以降は、家畜の主要な細菌感染症に対する抗菌剤の臨床応用の問題をテーマとしたシンポジウムを前後にわたり 3 回実施し、この分野の研究者や臨床獣医師への参考に供してきた。

今回もその一環として「豚の浮腫病（VTEC 感染症）に対する抗菌剤の応用について」のテーマでシンポジウムを実施することとした。

周知の通り、これまで野外で発生している豚の大腸菌症は、いくつかの型があり、その原因菌の種類や発病機序により分類されている。その中で Vero 毒素産生大腸菌（Verotoxin-producing *E. coli*, VTEC と略称）による豚の浮腫病の集団発生が近年増加傾向にあり、問題化している。

そこで、今回のシンポジウムでは、演題の 1 として豚の浮腫病に関して全般的な解説を中澤宗生氏にお願いした。さらに 2 として、医学領域における同様の疾患であり、1996 年に大流行が認められた人の腸管出血性大腸菌 O 157 感染症とその治療に関する総説を相楽裕子氏にお願いした。

以上に引続いて演題 3、4 においては、渡辺一夫氏と長尾ゆかり氏のそれぞれに、農場における豚の浮腫病の発生例とその対策について、現場の成績を提示いただくこととした。

さらに、追加演題として大谷利之氏（演題 5）に野外の豚由来毒素産生性大腸菌の薬剤耐性を中心とした全国調査成績についての講演をお願いした。

以上のような企画に基き、以下に各演者から詳しく成績を述べていただくが、今回のシンポジウムの内容が、特に第一線で日夜家畜の診療に苦勞されている獣医師の方々の指針となれば、幸いである。

今後、このような本会の企画に関し、一般の方々からのご要望やご提案があれば、ご遠慮なく本会事務局へお申出いただきたい。

* 本特集は 1999 年 4 月 17 日に開催された第 26 回本会シンポジウムの講演要旨である。

最後に、各演者の方々にはご多忙中のところを快くお引き受けいただいた。特に相楽裕子先生には激務のところをわれわれのために貴重な時間を割いていただいた。以上の各位のご厚意に対して、本会を代表して厚く御礼申し上げます。

なお、このシンポジウムの企画、進行、要旨編集などにご協力いただいた諸氏にもあわせて謝意を表します。